



53. クロマグロ *Thunnus thynnus* (Linnaeus)

図版20

英名 bluefin tuna

露名 オブイクノウェンヌイ トゥニェツ
обыкновенный тунец

地方名(北海道) マグロ、ホンマグロ、メジ、ゴンタ、ヨコワ、シビ

漢字 黒鮪、真黒、目黒、本鮪

アイヌ語名 シンピ、シピ、トチネシンピ、ヤイコイコル、オソロケ

【形態】 体は紡錘形^{ぼうすい}。眼は小さい。胸びれは短く、第2背びれの前端に達しない。第2背びれと尻びれ^{しり}の後方には、それぞれ8個ほどの小さなひれがある。体の背側^{はいそく}*は青みを帯びた黒色で、体側から腹部は銀白色。小型魚の体側には多数の白い横じま*模様がある。マグロ属*7種*のなかで最も大きくなり、尾叉長* 3 m、体重700kgに達する。

成長するに従って呼び名が変わり、幼魚*はヨコワ、体重20kgまでの小型魚はメジ、ゴンタなどと呼ばれる。

【生態】 北太平洋では、日本列島の南方海域から北海道近海に至る沿岸域、三陸東方沖合、カリフォルニア近海に分布する。低水温に強く、マグロ類のなかで最も高緯度まで分布する。北海道周辺では、対馬暖流*や津軽暖流*が流れる北海道西部日本海や北海道南部太平洋への回遊*が多い。

産卵は、主に5～7月に沖縄をはじめとする南西諸島から台湾東方の水温

24℃以上の海域で行われる。また日本海でも7～8月に山陰沖から秋田沖で小規模な産卵が行われる。記録的な高水温となった1994年8月には、松前じま島周辺でクロマグロの産卵とみられる行動が撮影され、新聞報道によって話題となった。産卵海域の範囲は夏の水温の高さが関係しているようだ。

日本の南方海域で生まれたクロマグロは、日本列島周辺を春から夏に北上し、秋になると南下する季節移動を繰り返して成長する。その後1、2歳魚の一部は日本の沿岸を離れ、太平洋を横断して遠くアメリカ西海岸まで回遊する。ここで2、3年を過ごし、4歳までには再び太平洋を西へと進み、産卵のために日本近海に戻り、日本周辺でだけ回遊した群れと合流する。

満5歳、尾叉長140cm、体重60kgになると成熟*し産卵する。産卵数*は100万粒以上。卵は分離浮性卵*で、水温22～27℃では約31時間でふ化する。ふ化直後の仔魚*の全長*は約2.8mm。クロマグロの年齢と成長の関係は、体長組成、耳石*や脊椎骨にできる年輪、標識放流*結果などによって推定され、生後3カ月前後で尾叉長25～30cm、1歳で56cm、体重4kg、3歳で108cm、26kg、10歳で191cm、130kgになる。寿命は20年以上と考えられる。

主な餌はイワシ類やマサバなどの魚類、イカ類、甲殻類などで、ときにはカレイ類、ソイ類、スケトウダラなど底魚類そこうおも食う。